

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---|-----------|-------------|--------------|
| 保育者論 On early childhood educator and carer | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (保育士養成課程必修) | こどもフィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教師論その他教職科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程必修科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 久保田隆範 | 本館3階 | 授業中に指示します | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 本講義では、保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務と生活等々を題材にして、あるべき保育者像を考究する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①保育者の仕事と職務を正しく認識することができるようにする。 ②保育と保育指導技術についての基礎・基本的な知識・技術を習得することができるようにする。 ③子育て支援の社会的意味・意義についての認識を正しく持つことができるようにする。 ④これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能、コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得することができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行うが、「調べる・考える学習」を重視した授業展開として、発表やディスカッションも取り入れる。その中で、保育者の在り方を多角的に捉えられるようにしていきたい。また、8回目には振り返りの中間テストを実施。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術をもって、子どもの保育並びに保護者に対する保育に関する指導の在り方を提案することが出来る。 ②我が国の子育て支援政策の現状と課題並びに地域社会の子育てをめぐる諸課題について正しい認識を有し、その課題の解決にあたる姿勢を身につけ、保育士としてその専門性並びに専門職的成長に、期待される保育者像につなげることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス、授業の概要、進め方等の説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明 | | | |
| 第2回目 | 保育者になるということ 育てられる人から育てる人へ | | | |
| 第3回目 | 保育者の仕事と役割（幼稚園教諭の仕事と役割・保育所における保育士の仕事と役割） | | | |
| 第4回目 | 保育者に求められる資質と能力（保育者に求められる幅広い資質・現代の保育者に期待される役割・学生時代に学ぶこと） | | | |
| 第5回目 | 保育者として働く（職場での学び・学び続ける保育者） | | | |
| 第6回目 | 子どもの育ちの危機と子育て支援①（「子育て支援」と保育者の役割） | | | |

| | | |
|---|--|---|
| 第7回目 | 子どもの育ちの危機と子育て支援②（「子育て支援」を考える視点） | |
| 第8回目 | 保育指導の基本構造と技術（保育指導の基本姿勢と対象・保育指導の展開過程と基本技術） 小テスト | |
| 第9回目 | 異文化・多様性理解教育(保育)の必要性① 映像資料から考える | |
| 第10回目 | 異文化・多様性理解教育(保育)の必要性② これからの保育者に期待されるもの | |
| 第11回目 | あそび通しての総合的な指導 保育者の関わり方 | |
| 第12回目 | 保育者の職務と生活 職務の法的根拠 服務義務 | |
| 第13回目 | 保育者の倫理 保育者の権利と研修 生涯の仕事としての保育者 | |
| 第14回目 | 保育者の専門性とライフコース | |
| 第15回目 | 時代が求める「保育・保育指導」と保育者 | |
| 事前・事後学習 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領を十分に読み込み、授業に臨むこと。また、日常的に新聞やニュースなどで保育や教育に関わるトピックスに注目し、時事に関する関心を高めてほしい。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| | 評価の領域 | 割合 |
| | | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。（詳細は授業内で説明する） |
| レポート | 20% | 詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。（詳細授業内で説明する） |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 20% | 8回目に実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に表現されている。（詳細は授業内で説明する） |
| 試験 | 50% | 論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超え、自己の考え方も示されている。（詳細は授業内で説明する） |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 授業内で適宜資料を配布する。 参考図書：『保育所保育指針』（厚生労働省） 『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『保育者論』 矢藤誠慈郎・天野珠路編（中央法規出版） | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 意欲的、積極的に学習課題に取り組むこと。遅刻厳禁。 | | |

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---|-----------|-------------|--------------|
| 保育者論 On early childhood educator and carer | | 1年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (保育士養成課程必修) | こどもフィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職科目全般 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程必修 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 久保田隆範 | 本館3階 | 授業中に指示します | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 本講義では、保育者の仕事と役割、保育者になるための学び、保育士の制度的な位置づけ、保育者の職務と生活等々を題材にして、あるべき保育者像を考究する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①保育者の仕事と職務を正しく認識することができるようにする。 ②保育と保育指導技術についての基礎・基本的な知識・技術を習得することができるようにする。 ③子育て支援の社会的意味・意義についての認識を正しく持つことができるようにする。 ④これからの保育者に期待される幅広い知識・教養・技術・技能、コミュニケーション能力、実践研究能力、組織的活動能力の基礎を習得することができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行うが、「調べる・考える学習」を重視した授業展開として、発表やディスカッションも取り入れる。その中で、保育者の在り方を多角的に捉えられるようにしていきたい。また、8回目には振り返りの中間テストを実施。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| ①保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術をもって、子どもの保育並びに保護者に対する保育に関する指導の在り方を提案することが出来る。 ②我が国の子育て支援政策の現状と課題並びに地域社会の子育てをめぐる諸課題について正しい認識を有し、その課題の解決にあたる姿勢を身につけ、保育士としてその専門性並びに専門職的成長に、期待される保育者像につなげることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス、授業の概要、進め方等の説明 レポートのテーマ及び提出期限等の説明 | | | |
| 第2回目 | 理想の保育者像について考える（自身の体験からの振り返り） | | | |
| 第3回目 | 保育者になるということ 育てられる人から育てる人へ | | | |
| 第4回目 | 保育者の仕事と役割（幼稚園教諭の仕事と役割・保育所における保育士の仕事と役割） | | | |
| 第5回目 | 保育者に求められる資質と能力（保育者に求められる幅広い資質・現代の保育者に期待される役割・学生時代に学ぶこと） | | | |
| 第6回目 | 保育者として働く（職場での学び・学び続ける保育者） | | | |

| | | |
|---|--|---|
| 第7回目 | 「子育て支援」と保育者の役割 | |
| 第8回目 | 保育指導の基本姿勢と対象 小テスト | |
| 第9回目 | 異文化・多様性理解教育(保育)の必要性① 映像資料から考える | |
| 第10回目 | 異文化・多様性理解教育(保育)の必要性② これからの保育者に期待されるもの | |
| 第11回目 | あそび通しての総合的な指導 保育者の関わり方 | |
| 第12回目 | 保育者の職務と生活 職務の法的根拠 服務義務 | |
| 第13回目 | 保育者の倫理 保育者の権利と研修 生涯の仕事としての保育者 <小テスト> | |
| 第14回目 | 保育者の専門性とライフコース | |
| 第15回目 | 時代が求める「保育・保育指導」と保育者 | |
| 事前・事後学習 | 保育所保育指針・幼稚園教育要領を十分に読み込み、授業に臨むこと。また、日常的に新聞やニュースなどで保育や教育に関わるトピックスに注目し、時事に関する関心を高めてほしい。 | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細は授業内で説明する) |
| レポート | 20% | 詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細授業内で説明する) |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 20% | 8回目に実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に表現されている。(詳細は授業内で説明する) |
| 試験 | 50% | 論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超え、自己の考え方も示されている。(詳細は授業内で説明する) |
| 発表内容(態度含む) | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 授業内で適宜資料を配布する。 参考図書：「保育所保育指針」厚生労働省 「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育者論」 矢藤誠慈郎・天野珠路編 中央法規出版(株) | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 意欲的、積極的に学習課題に取り組むこと。遅刻厳禁。 | | |